

夜間当直者と若手検査技師のための凝固検査の知っておきたい基礎知識Ⅴ

～ 遭遇する可能性のある検査異常値とその対応方法を中心に ～

須長 宏行

(積水メディカル株式会社 国内営業部 東日本営業所 学術・技術担当)

【はじめに】

「検査の始まりは採血である」と言われるように、採血手技や採血管の取扱いが適切でないと正確な検査値を報告することはできない。凝固検査においては「採血管の転倒混和」が最も重要である。さらに、適切な条件での採血・採血管取扱い、遠心条件、保存条件などが重要といえる。

本ランチョンセミナーでは夜間当直者と若手検査技師の役に立つ4つのテーマ（①凝固線溶検査の基礎知識、②検査異常値の対応方法、③採血・採血管の取扱いと検査値への影響、④血液検査 誌上相談室の活用法のご提案）について情報提供する。

【本セミナーの内容】

『凝固線溶検査の基礎知識』：夜間当直者および若手検査技師に有用と考えられる凝固線溶検査の基礎知識から実践で役に立つ周辺知識までを解説する。

『遭遇する可能性のある検査異常値の対応方法』：凝固検査の異常値に遭遇した場合、まず前回値や関連する検査項目について確認し、その上で臨床側に緊急報告（パニック値の報告）が実施される。この時に異常値の発生原因（病態、治療、分析系、採血・採血管の取扱い）を識別できる能力が求められ、これらの能力向上に役立つ知識について解説する。

『採血・採血管の取扱いと検査値への影響』：凝固検査用採血管は他の採血管と比べて、採血・採血管の取扱いに由来する再採血の頻度が高く、夜間当直帯も同様といえる。夜間当直者がこのような検体（採血管）に遭遇した時に役に立つ、凝固検査用検体取扱いに関するコンセンサスおよび検査異常値の考え方のポイントについて解説する。

『血液検査 誌上相談室の活用法のご提案』：2017年に「血液検査 誌上相談室」が掲載（メディカル・テクノロジー）された。この小冊子は、夜間当直者や若手検査技師の役に立つ20の相談と回答がコンパクト（60頁）にまとめられており、その活用法について解説する。

【本セミナーの目的】

本セミナーの目的は明日からの凝固検査に役立つ情報の提供である。「血液検査 誌上相談室」の活用は夜間当直者や若手検査技師に十分に役立つものと考えられる。本セミナーが皆様の凝固検査の知識向上とスキルアップのお役に立つことを願っております。

<参考資料>

- 1) 日本検査血液学会標準化委員会凝固検査標準化ワーキンググループ：凝固検査用検体取扱いに関するコンセンサス. 検査血液会誌, 17(2): 149-168, 2016.
- 2) 「血液検査 誌上相談室」. メディカル・テクノロジー, 45(9): 894-952, 2017.

<連絡先>TEL：048-729-5460 住所：さいたま市大宮区宮町 1-114-1 ORE 大宮ビル 7階